

巻頭言

日本赤十字九州国際看護大学紀要 第12号によせて

日本赤十字九州国際看護大学

学長 浦田 喜久子

本学の紀要は、今回で12号となります。第1号は2002年に「日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report」として刊行されていますので、開学の翌年から発刊されたこととなります。2011年には、これまで、厳格な理論審査のもとに論文掲載を実施してきた実績から、「日本赤十字九州国際看護大学 紀要」と誌名が変更されました。

私は、本年4月から、本学に、学長として就任して参りましたが、今日までの発展を見ますと、開学以来、教育体制の充実を図るべく、先生方の教育・研究への努力は如何ばかりかと察するに有り余るものがあります。殊に、本学が、「赤十字」、「看護」、「国際」という文字を大学名に掲げていることから、これらのどの領域にも充実した教育・研究の基盤を整えてきています。2007年には、大学院看護学研究科を開設し、また、大韓赤十字看護大学との国際交流協定を皮切りに、本年まで、7つの海外の大学と協定を締結し、教育・研究機能の充実を図っています。今後は、これらを基盤として、さらに内容の充実・発展を目指したいと思います。

今日、大学改革のうねりも強く、学生の主体性を育てる教育やグローバル化に対応できる教育、さらに、地域や産業と連携した大学の在り様が求められています。このような社会の変化や期待に応えうる大学として進化していくためには、日常の教育活動や研究活動の地道な努力が重要と考えています。それぞれの先生方の努力の結晶を共有することによって、大きな力になっていくものと信じています。「紀要」がその共有の場となりますことを期待しています。特に、これから、教育者として、研究者として、大きく育っていかれる若い先生方、そして、大学院生にも「紀要」への投稿を大いに期待します。

大学は、研究機能が充実してこそ、大学の大学たる所以であります。これまで以上に、研究成果が教育へと、また臨床看護へと活かされ、臨床の課題が教育・研究へとつながっていく良いサイクルができるように祈っています。

2013年11月